

日照不足等に対する技術対策

野 菜

〔施設野菜〕

①ハウス周囲に排水溝を設置し、ハウス内への浸水を防止する。

〔いちご〕

①炭そ病、うどんこ病の発生が予想されるので、防除を徹底する。

〔夏秋トマト〕

①軟弱徒長防止のため、かん水や追肥は控える。

②疫病、灰色かび病、斑点細菌等の発生がみられるので、下葉かぎを行い防除の徹底をはかる。
③着果安定のためにトマトトーンでの着果促進を行う。

④整枝を行い、採光や通風をよくする。

〔夏秋ピーマン〕

①軟弱徒長防止のため、かん水や追肥は控える。

②疫病、灰色かび病、菌核病等の発生がみられるので、摘芽、整枝を行い、採光や通風をよくするとともに防除を徹底する。

〔夏秋きゅうり〕

①軟弱徒長防止のため、かん水や追肥は控える。

②灰色かび病、菌核病等の発生がみられるので、摘芽、整枝誘引を行い、採光や通風をよくするとともに防除の徹底をはかる。

③適期収穫（80～100g）により草勢低下を防ぐ。

〔こねぎ〕

①日照不足後の急激な晴天で倒伏するため、灌水量の調節等で軟弱徒長を防ぎ、晴天時に倒伏防止の遮光ができるよう遮光資材を準備しておく。

〔に ら〕

①急激な晴天時の高温で葉先枯れを起こすので、灌水量の調節等で軟弱徒長を防ぎ、ハウスを十分開放し、温度上昇を防ぐとともに、急激な晴天時に先枯れ防止の遮光ができるよう、遮光資材を準備しておく。

〔その他露地野菜〕

①ほ場周囲に排水溝を設けるとともに、雨水の流入防止を徹底する。

②病虫害の発生や作物の生育状況に注意し、適期防除と肥培管理を徹底する。